

ストラスブールの研修で学んだ・獲得した3つのこと

1) はじめに

今回のストラスブールの研修は、私にとって初めての海外渡航だった。そのため、少し不安な気持ちで飛行機に乗ったことを覚えている。しかし、この研修はそんな不安を消し去るような素晴らしい体験をさせてくれた。ここでは、私がこの研修に参加させてもらって学んだこと、獲得したことについて大きく3つにわけて書いていこうと思う。

2) この研修で学んだこと

この研修で学んだことの1つは、自分が持っているフランスに対してのイメージは実際とは異なり、自分の目で見ること、話すこと、触れることによってでしか感じられないものがあるということ学んだ。その中で最も感じたことはフランスの方々の温かさである。印象に残っている出来事はいくつかあるが、ここでは2つのエピソードを挙げようと思う。まずは、美術館に見学に行った際に、ガイドの方の説明がフランス語でほとんど理解出来ない私のために、フランスで日本語を学んでいる学生が辞書を片手に一生懸命説明してくれたことだ。その時は一度も話したことがなく、また誰かに言われたわけでもないのにその学生は最後まで分かりやすく説明してくれた。正直自分が逆の立場だったら同じことができたかといわれればなかなか難しかったと思う。言語の壁があるにも関わらず、進んで困っていた私を助けてくれたことに嬉しさと優しさを感じた。2つ目は、スーパーで買い物中に、前のお客さんが忘れた傘を店員さんが気づいた時のことである。全く動けなかった私達とは異なり、直ぐに店員さんが動き笑顔でその傘を届けに行ったのだ。さらに驚いたのは、その時に私たちの後ろに並んでいたお客さんが店員さんと同じタイミングで傘を届けようと動いたことだ。それが仕方なくというような態度ではなく、そうすることが当たり前であるかのような自然な行動だったためそのような姿にもフランスの人々の優しさを感じた。また、お店に入る時、ホテルの中ですれ違った時、お店から出る時、全く知らない人でも挨拶を交わすというのが凄く温かいと思った。もちろん日本の中でもあり得る光景かもしれないが、どこか海外が怖いと思っていた私にとっては、この体験でそれがただのイメージに過ぎないということが分かった。自分の目を見て、実際に触れることで本質を知ることができるということをこの研修に参加して知ることができた。

2つ目は私が日本で当たり前だと思っていたことは、決して当たり前なことではないという点である。まず初日に一番驚いたのは信号である。日本の信号で当たり前にある点滅や黄色信号というものはなく、さらに青信号の時間がどう考えても短い。赤信号から青信号に変わり直ぐに歩き出したとしても、半分もいかないうちに赤に変わってしまう。そのため、フランスでは赤信号でも車が来なかったら渡るのが普通のことである。また、信号がないような交差点ではほとんどの車が歩行者のために止まってくれる。日本ではあまり見ない光景に最初は戸惑ったが、慣れるにつれてそれがこの国の当たり前であることに気づき、私が日本でしていたことが万国共通の理解の元にあるものではないことを知った。また、食事に物凄く時間をかけることにも驚いた。家庭訪問の際の話だが、12時前に始まったはずの食事は最後のデザートが出てきたころには2時半になっていたが、それを現地の人長いと感じている様子はなかった。

また、レストランの会計が物凄くゆっくりであることも日本との違いを感じた。日本は最後の料理が出てくるタイミングで伝票が置かれ、自分達の食事が終わったタイミングでそれをレジに持っていくが、フランスでは食事後に会計をお願いしますと言ってようやく伝票がでてくる。しかもこの伝票が出てくるまでがとても長い。普段、急いで食事をしている感覚はなかったが、これらを通して、日本でどれだけ急いで食事をしていたのかということに気づかされた。また、お店で買い物をする際の値段の表示は全て税込で会計時に凄く楽だったことや、日本の1階がフランスの0階に値することなど、多くの日本と異なる点が見られた。これらの体験を通して、自分が当たり前だと思っていたこと、または当たり前だということすら認識してなかったことが、他の文化に触れることで当たり前だとは限らないということを学んだ。言葉で異文化理解ということは簡単であるし、自分自身もそのような文化を理解しているつもりであったが、自分が気づかないところで日本での生活を当たり前だと思ってしまっていたことに気づいた。今回の研修でそれに気づけたことが身につけた力であるとともに、そのような違いに気づくことが異文化理解の最初の一步なのではないかと思った。

最後の点としては、実際の生活の中でフランス語に触れることの大切さを学んだ。以前から、フランス語の「R」の発音が苦手だった私にとっては、さようならを意味する「Au revoir」の発音がどうしても上手くできず、授業中も何度か指摘されていた。しかし、今回ストラスブールの研修に参加し、毎日どこかの場面でこの言葉を使っていたら自然と発音ができるようになった。もちろん、語彙の面など知らない間に身につけているものもたくさんあると思うが、この言葉がスムーズに使えていたことが目に見えて実感した大きな違いだった。また、帰りの空港はドイツだったため本来なら英語を使うはずなのだが、返事もありがとうというのもすべてフランス語が最初に出てくる自分にも驚いた。これが現地の生活の中で学ぶということであり、今回の研修を通して私が身につけた力だと思う。

3) 最後に

この研修を通して、ストラスブールやフランスへの印象は大きく変わった。どこかで日本は安全な国、海外は治安などの面から怖いと思っていた自分がいたが、実際に渡航してみてその印象は薄れた。それどころか、ストラスブールの人は皆温かく、もう少し長い間滞在したいと思うほどだった。また、私は今回のストラスブールの研修で同じアーティストが好きなフランス人の友達ができ、自分のただの趣味が国を超えて友達を作るきっかけになるとは思わなかったが、このような出会いができたのもこの研修があったからだと思う。フランスでできた友達とは今でも LINE で連絡を取っており、この出会いにとっても感謝している。また文系理系、学部、学年を問わずフランスについて学びたいと思う多くの学生と仲良くなれることもこの研修の魅力であると思う。慣れない国での生活が最後まで何事もなく終わったのは、この仲間がいたからだと感じている。海外に行くと言物の考え方や見方が変わるというような話を聞くが、少なくともこの研修でフランス語の学習だけではなく今後の勉強に対しての見方は変わったし、この研修がなければ出会わなかった友達と出会うことができた。この研修に参加するにあたって働きかけてくださったすべての方に感謝するとともに、この研修に参加できたことを本当に嬉しく思う。